

第 2 章 計画の対象となる項目

第 1 節 環 境 質

環境質を構成する様々な事象や物質としては、大気、水質、騒音、地盤沈下など公害対策基本法に定める七種の公害事象に係る環境質のほか、電波障害、光害、日照など数多くのものがあげられる。

このような多種多様な事象や物質の中から、人の健康を保護するための水準や容量の設定の可能性などについて検討を加え、その結果、公害対策基本法に定める七種の公害事象に係る環境質の中から、大気質、水質、騒音、地盤沈下の 4 事象について対象項目を設定した。

大気質については、二酸化硫黄、二酸化窒素を対象項目とし、水質については、河川においては、生物化学的酸素要求量を、また、湖沼及び海域については、化学的酸素要求量をそれぞれ対象項目とした。騒音については、航空気騒音、鉄道騒音、建設作業騒音を除く一般騒音を環境騒音として、また、航空気騒音、新幹線鉄道騒音は特殊騒音として、それぞれ対象項目とした。地盤沈下については、地下水域としての地下水盆を対象項目とした。

環境質に係る計画対象項目

対 象 質	対 象 項 目
大 気 質	二酸化硫黄、二酸化窒素
水 質	生物化学的酸素要求量（河川）、化学的酸素要求量（湖沼、海域）
騒 音	環境騒音（一般）、特殊騒音（航空機、新幹線鉄道）
地 盤 沈 下	地 下 水 盆

公害対策基本法に定める七種の公害事象の個々について検討した結果の概要は次のとおりである。

1. 大 気 質

現在、環境基準が設定されている二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダ